様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １７ 日現在

機関番号：３２５１７
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2022
課題番号：１８Ｋ１７５０３

研究課題名（和文）看護師の終末期患者との心理的距離自己認識尺度の開発

研究課題名（英文）Development of a scale of psychological distance with dying patients formed by nurses

研究代表者
西田　三十一（Nishida, Mitoi）

聖徳大学・看護学部・准教授

研究者番号：１０７３６６２２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、看護師が形成する終末期患者との心理的距離尺度を開発した。全国の看護師323名から質問紙調査により得られたデータについて、探索的因子分析、信頼性・基準関連妥当性の検証、共分散構造分析などを実施した。その結果、本尺度は「患者との距離の調整」「患者から自己への思いの認知」「終末期を意識した看護実践」「患者への感情調整」の4因子13項目(5件法)が抽出され、尺度の信頼性と妥当性が確認された。

研究成果の学術的意義や社会的意義
看護師は終末期患者との関わりに苦悩し、時には患者へ否定的感情を抱き一線を引くような心理的距離を形成することもあるが、自己の心理的側面からその関わりを振り返る機会は少ない。本研究において、看護師が形成する終末期患者との心理的距離尺度を開発したことにより、終末期患者と関わる看護師が、心理的距離の視点から自己の感情や思考を整理し終末期患者との関わりを振り返ることに活用できると考える。

研究成果の概要（英文）：In this study, we developed a scale of psychological distance with dying patients based on a survey among nurses. Data obtained from a questionnaire survey of 323 nurses nationwide were analyzed using exploratory factor analysis, verification of reliability and criterion-related validity, and covariance structure analysis. The resulting scale consisted of 4 factors and 13 items (5-item method). The 4 factors are as follows: “Adjustment of distance from the patient”, “Cognition of the patient's feelings towards himself”, “Nursing practice with awareness of terminal illness”, and “Emotional adjustment to the patient”. This confirmed the reliability and validity of this scale.

研究分野：看護学

キーワード：終末期　終末期患者　看護師　心理的距離　尺度開発　看護師の感情　看護教育

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

(1) 終末期患者と看護師の心理的距離

看護師は、終末期患者が「死」という避けられない現実の中で苦しむ状況を目の当たりにし、患者とどのように関わればよいかがわからず、苦悩している現状がある。終末期患者に対する看護師の感情や意識および行動に着目した幾つかの研究では、患者・家族とのコミュニケーションにおける心的負担や患者の心の中に入る怖さを感じ、一線を引くような心理的距離を形成していることや、看護師の方から心を閉ざしてしまったことが示された(下平,2007；西田,2013；岩崎,2014)。一方では、緩和ケア病棟の熟達看護師が、患者の向く方向に寄り添い死にゆく過程を伴走し、患者にとって自己が緩和的存在となるための心理的距離を意図的に形成していることが報告されている(西田, 2016)。このような‘ 心理的距離 ’について、心理学分野では<親密感>であると述べられ、自己から相手および相手から自己に向けて存在する動的に変化する距離感によって成り立つと述べられている(山根,1987)。しかし、看護学においては異なる特徴があり、看護師は自己の役割を意識し、患者との心理的距離を意図的に形成していることが示された(西田,2016)。

(2) 看護師が終末期患者との心理的距離を認識しにくい現状

看護師は終末期患者との関わりに苦悩を抱えているが、多忙な業務の中で、患者との心理的距離を振り返る機会は少ない。研究者が実施してきたインタビューの中でも、多くの看護師から、今まで終末期患者との関わりについて自分の思いを表出することがなかったことや、インタビューを通して終末期患者との関わりを避けている自分に気づいたことなどが語られていた(西田, 2013)。看護師が、多忙な業務の中でも、自己の形成する患者への心理的距離を振り返り認識した上で関わり、終末期患者にとって緩和的な存在となり得る看護を考え実践できるように支援することが必要である。

２．研究の目的

これまで述べてきたように、看護師は終末期患者との関わりに苦悩しているが、患者に自己が形成している心理的距離を振り返る機会が少なく、患者との関わりを避けていることに気づかずに看護を実践し続けている現状がある。そのため、看護師が患者との理的距離を振り返るための指標が必要であると考えた。よって、本研究の目的は、看護師が形成する終末期患者との心理的距離尺度を開発し、信頼性と妥当性を検証することである。

３．研究の方法

(1) パイロットスタディ

尺度項目は、看護師が形成する終末期患者との心理的距離に関する面接調査の結果(西田,2013;2020)および看護師からみた終末期患者との心理的距離の概念分析の結果(西田,2016)をもとに作成した。尺度原案は、内容妥当性と表面妥当性の検討およびパイロットスタディにより項目を精選し尺度案を作成した。

(2) 本調査

パイロットスタディにより精選した尺度案を用いて全国の一般病床(300 床以上)を有する医療施設に勤務する看護師を対象に郵送法による無記名自記式質問紙調査を実施した。得られたデータに基づき、構成概念妥当性、基準関連妥当性などを検討し、尺度の信頼性・妥

当性を検証した。

本研究は、聖徳大学ヒューマンスタディに関する倫理委員会の承認を得て実施した。

４．研究成果

(1) パイロットスタディ

尺度項目は 68 項目を収集し、内容妥当性・表面妥当性を検討した結果、尺度原案は 47 項目となった。さらに、パイロットスタディとして、2021 年 2 月に、関東圏内にある 300 床以上の医療施設 1 施設に勤務する一般病棟の看護師を対象に、郵送法による自記式質問紙調査を行った。この調査結果から、尺度項目を精選し、尺度案として 40 項目を抽出した。

(2) 本調査

本調査は、全国の 300 床以上の一般病床を有する医療施設 92 施設(無作為抽出法)の看護師 812 名に郵送法による無記名自記式質問紙調査を実施し、返送された 323 名の回答を本研究の対象とした(有効回答率 39.8%)。調査期間は、2021 年 10 月～2022 年 2 月であった。

分析は、記述統計、尺度項目の天井・床効果、項目間相関分析、探索的因子分析(一般化した最小二乗法、プロマックス回転)、確証的因子分析を実施した。信頼性は Cronbach's α 係数を抽出し、基準関連妥当性は、「Frommelt ターミナルケア態度尺度(中井ら, 2006)」、「共感援助行動尺度(上野, 2018)」との相関を検証した。統計解析ソフト IBM SPSS Statistics ver.27、SPSS Amos ver.28 を用いた。結果として、本尺度の第 1 因子(4 項目)は「患者との距離の調整」、第 2 因子(4 項目)は「患者から自己への思いの認知」、第 3 因子(3 項目)は「終末期を意識した看護実践」、第 4 因子(2 項目)は「患者への感情調整」と命名した。尺度全体の Cronbach's α 係数は.88、各因子は.54～.81 であった。探索的因子分析(一般化した最小二乗法、プロマックス回転)のモデル適合度は、GFI= 0.94、AGFI =.90、CFI =.95、RMSEA=.06 であった。本尺度と Frommelt ターミナルケア態度尺度、共感援助行動尺度の因子間に有意な相関がみられた($p < .01$)。

以上のことから、本研究の看護師が形成する終末期患者との心理的距離尺度は、一定の信頼性と妥当性が確認された。終末期患者と関わる看護師が、心理的距離の視点から自己の感情や思考を整理し終末期患者との関わりを振り返ることに活用できると考える。

本研究の成果の一部は、2022 年 12 月第 42 回日本看護科学学会学術集会にて発表した。

(尺度文献)

上野恭子他.(2018).看護師の共感的援助能力養成に関する教育プログラムの開発と効果検証.科学研究費助成事業研究成果報告書.

中井裕子他.(2006).Frommelt のターミナルケア態度尺度日本語版(FATCOD-B-J)の因子構造と信頼性の検討.がん看護, 11(6), 723-729.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 西田三十一、白鳥孝子、梅村美代志	４．巻 第21巻
２．論文標題 緩和ケア病棟においてエキスパートナースが形成する死にゆく患者との心理的距離	５．発行年 2021年
３．雑誌名 ヒューマン・ケア研究	６．最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 西田三十一
２．発表標題 看護師が形成する終末期患者との心理的距離尺度の開発
３．学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 西田三十一、志自岐康子、習田明裕
２．発表標題 一般病棟において看護師が形成する死にゆく患者との心理的距離
３．学会等名 第40回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2020年

１．発表者名 Mitoi NISHIDA
２．発表標題 Factors related to nurses’ formation of psychological distance with dying patients: findings from interviews with nurses on general and palliative care wards
３．学会等名 22nd EAFONS, 2019(Singapore)（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

日本医学哲学・倫理学会 上智大学生命倫理研究所共催シンポジウム あなたは「人生の最後を歩む人」にどう関わりますか－人生の最後を 歩む人と生きる家族・医療者の関わり 西田三十一「人生の最後を歩む人をケアする看護師への支援」 https://itetsu.jp/main/?p=2325

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関